

「人生のやる気デザイン」研究部会（第18回）

日時：2021年11月29日（月）13：00～15：30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：渡辺弥生・榎本淳子・杉本希映・中井大介・中谷素之 各兼任研究員
吉久知延所長・山口和人・泉水里香（野間教育研究所事務局）

欠席：倉住友恵・金沢千秋

内容：（1）榎本研究員：「日本の成人先天性心疾患患者の病みの軌跡—障害を持つ人の劣等感を考える」

- ・複線径路等至性モデル
2人の先天性心疾患患者の事例を取り上げ、劣等感について考える
- ・対象者の1人に「劣等感」を克服しようとしている言及あり
先天性疾患を持つ人は児童期での達成感や劣等感に特徴があるのではないか
- ・達成感≒劣等感の差異。EriksonとAdlerの精神分析を見直し
Eriksonの第IV段階（児童期）の課題：勤勉性/生産性 vs 劣等感
Adlerは器官劣等性について多く語っている。劣等感と心理的補償
- ・疾患を持つ人は、児童期において自分の能力を生かす機会/目的を貫く機会が持てず不全感を持ちやすいのではないか。その方向性が問題なのではないか。優越性の方向＝補償のあり方を探ると「つまずき」が見えてくるか
- ・質疑応答：親を支えるのも大事／他者からの影響が大きいのでは？

（2）渡辺研究員：「ソーシャル・エモーショナル・ラーニング（SEL）」の研究

- ・SELの実践と研究により、リスクを軽減し生徒の力を強化することができる
アメリカでは、問題行動を早期に発見し、介入することでより深刻な問題を回避することができるという公衆衛生モデルを想定する学校も増えている
例：RTI (Response to Intervention)、MTSS (Multi-Tiered System of Support)
SWPBIS (Schoolwide Positive Behavioral Interventions and Support など)
- ・カリフォルニア州で2009年より運用され始めたCALPADS (California Longitudinal Pupil Achievement Data System) の紹介
ここに蓄積される教育データを複数の基準から加工、可視化した上で、Webで公開している（学校ダッシュボード）。可視化される学校説明責任の位置指標として「学校風土」指標も設けられており、「学校ダッシュボード」上に公開されている
- ・質疑応答：日本との差異/日本はネガティブ傾向/日本のシステムは変わりにくい？

・次回研究会 12月13日（月）13：00～